

# 山形県公立小中学校事務職員研究協議会

## 令和4年度 置賜支部研修会

期日:令和4年11月7日(月)

会場:沖郷公民館(防災センター)

**講演** 『山形っ子を笑顔にする山形らしい学校事務  
～「専門性」「主体性」「積極性」を持ち、提案する事務職員～』  
**講師** 山形市立第一中学校 事務総括 井上 元 氏

### □ 研究協議会のテーマについて

- ・研究協議会の目的は研究と資質向上、教育の振興。  
⇒ 研究とは、新しいものの見方を生み出すこと。研修とはトレーニングすること。  
(参考文献:加藤崇英 月刊「学校事務」 学事出版 2015 7月号)
- ・現在の研究テーマにある学びとは、物事を主体的、積極的に自分の中に知識として取り入れることで、育ちとは成長すること、成長するときの環境や教育のことである。
- ・教員は子どもの育ちを豊かにし、学校事務職員はそれを支援することを期待されている。支援の質を上げることが大切。

### □ 研究活動のキーワード

- ・学校事務をつかさどるためには「専門性(本気)」「主体性(やる気)」「積極性(元気)」が必要になる。
- ・ともに(協働)、かかわり(連携)、つなぐ(調整と継承)=山形らしい学校事務
- ・「らしさ」は生まれと育ちで変わる。学校事務職員でいうと「生まれ=採用」と「育ち=研修」になる。
- ・つかさどる事務職員とは提案する事務職員であり、アイデアを出す力や自分で判断する力が必要となる。

### □ グループワーク①

テーマ:「自分で判断できる力を身につけよう」

～つかさどる事務職員=提案する事務職員になるために～

【あなたならどうする!予算総額150万円の場合、

一つ100万円の備品を買いますか】



### 《理由の一部》

- ・その備品がないと授業に支障が出る。
- ・長期的に使え、使用頻度が高い。
- ・使用頻度が少ない。
- ・他のもので代替可能。
- ・欲しいという熱量が感じられない。                      など

### >>井上事務総括より<<

- ・学校事務職員にしかできないことは、他の誰にもできない学校事務職員がすべきことであり、学校事務職員だからこそできることは、他の誰かにもできることだが学校事務職員の専門性を発揮できることである。
- ・学校事務職員が専門性を発揮できるのは学校であり、学校に居てこそその学校事務職員である。
- ・学校にいてどのような役割を担っていけばよいか、どのような場面でもとめられるのか。チーム学校の一員としてどのような役割を担っていけばよいのか。

### □ グループワーク②

テーマ：「本気、やる気、元気を沸き起こそう」

～「専門性」「主体性」「積極性」を持つ事務職員になるために～

【教えて!あなたの成功体験・感動体験】



### 《成功・感動体験例の一部》

- ・学校集金を口座振替に変えたこと。
- ・児童からの購入要望に応じてお礼を言われたこと。
- ・ファイルを整理して働きやすくしたこと。                      など

### 《今後新たに取り組みたいこと・挑戦したいこと》

- ・修繕個所の点検。
- ・提案ができるようになる。
- ・地域連携。                      など

### >>井上事務総括より<<

- ・成功体験、感動体験はすべて人のかかわりから生まれる。これらが本気・やる気・元気の源になる。失敗しても行うことに価値がある。

### □ 最後に

- ・感動できることはひとつの能力である。
- ・「現状維持は退歩である」誇りを持って学び続けていきましょう。

## □ 講演の感想より(抜粋)

- ・「本気」「やる気」「元気」で一步踏み出してみたいと思う。
- ・講演を聞くだけでなく、様々な経験年数の方とのグループワークを行うことで、より多くの知識や実践、心構えを学ぶことができ刺激を受けた。
- ・今後は、一方的ではなく、様々な角度から物事を捉え、仕事の幅を広げられるように努めていきたい。
- ・教員が授業をしやすく、児童生徒に授業が楽しいと思える環境づくりをしていきたい。
- ・研究テーマを設定するにあたっての思いや経緯を知ることができた、自分は山形の教育に携わる事務職員だということを改めて感じる事ができた。